

# 龍源寺報

春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職	松原信樹
仏母寺住職	松原覚樹	
正福寺住職	松原行樹	
TEL	3451-1853	
FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryigenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

## ひとかけらの慈悲心(布施のこころ)

ある日突然、ガンの宣告を受けたり、大きな交通事故に遭ってしまふ。どうすることもできない深刻な気持ちになる。考えに考え、悩みに悩んで、自分は、もしかしたら死んでしまふのではないかと考えてしまふ。しかし、それは、同事に、人が物事を本質的に考える機会でもある。死とは何か、私とは何か。宇宙とは何か。世界が存在するということはどういうことか。

釈尊は、生・老・病・死という四つの苦を説く。これらに対して『般若経』という經典の中で、六波羅蜜という在家が彼岸会に行うべき六つの実践徳目が説かれる。その中の一番はじめに、布施がある。お金を施すだけでなく、困っている人に、優しい言葉をかけたり、優しい眼差しをおくるのも二つの布施である。自分の中の最良のものを困っている人に与えていくことが布施の真の姿である。そこで、キリスト教の方であるが、マザーテレサの詩を紹介したい。

人は不合理、非論理、利己的です  
 気にすることなく、人を愛しなさい  
 あなたが善を行うと、利己的な目的でそれをしたと言われるでしょう

気にすることなく、善を行いなさい  
 目的を達しようとするとき、邪魔立てする人に出会うでしょう

気にすることなく、やり遂げなさい  
 善い行いをして、おそろく次の日には忘れられるでしょう

気にすることなく、善を行い続けなさい  
 あなたの正直さと誠実さが、あなたを傷つけるでしょう

気にすることなく正直で誠実であり続けなさい  
 助けた相手から、恩知らずの仕打ちを受けるでしょう

気にすることなく、助け続けなさい  
 あなたの中の最良のものを、世に与えなさい  
 けり返されるかもしれません

でも気にすることなく、最良のものを与え続けなさい

マザーテレサ『愛の花束』あなたの中の最良のものを  
 (中井俊巳著・PHP文庫)

仏教・キリスト教・儒教などのセクトを外し、それらの教義を並列に並べて「布施」ということを

(次項へつづく)

考えた時、この詩には、一句一句に布施における大切な要素がたくさん込められている。妙になれなれしく浅いネット言葉が氾濫している今日、大変深い言葉である。自分が、ガンの宣告を受けたり、不治の病の宣告を受けて死に直面したとき、最期まで、詩に描かれた慈悲の気持ちと、感謝の気持ちと、布施の心で人に接したい。きっと豊かな気持ちで最期を迎えられると思う。泰道老漢がいつも言っていた、「良いときも、悪いときも、気持ちは変わらないように」という言葉が、この詩で少し深まった。

## お彼岸法要

左の通りに行ないます。ご家族そろってお参りください。

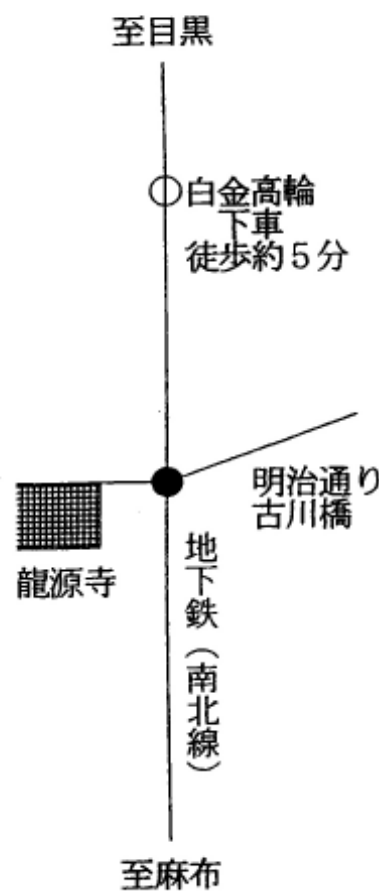
一、三月二十一日（午前十一時より）

一、読経

一、法話

一、会費（お布施）

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。



- 都06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車
- 品97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ（循環）
- 東98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

## 日月庵坐禅堂 「春の作務の会」のお知らせ

北軽井沢日月庵坐禅堂にて一泊二日の作務の会を行います。

春から秋にかけて研修や坐禅会を行うため、研修所の掃除・布団の整理・倒木片付けなどの作務をします。冬の間閉ざしていた坐禅堂・研修所に今年の風を入れ、暖かいふとんを準備したいと思えます。毎年あまり坐禅の時間はとれませんが、有意義な会にしたいと思っています。夜は懇親会を設け、皆様と歓談の時間をとりたいと思っています。お手伝い大歓迎します。北軽井沢は寒いと思います。ご参加の方は、冬物の洋服を持参されることをお勧め致します。

目的：日月庵坐禅堂・研修所の大掃除

指導：龍源寺住職

日時：平成二十三年四月十六日(土)～十七日(日)二泊二日

集合：四月十六日十一時日月庵・星雲苑研修所に現地集合

昼食はご持参にて入山願います。

解散：四月十七日祝粥座後十時頃、現地解散(予定)

持ち物：シートとタオル二本

所在地：群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢日月庵坐禅堂

電話番号：〇二七九一八四一四二〇六

## 佛母寺春の茶会

立春を迎えまして、鹿野山も菜の花の香りに包まれる季節がやってまいります。

参道の桜や桃も開花の準備をしております。花を愛でながらお茶の会をお楽しみ頂きたいと思えます。

ご都合をつけて是非御来山いただけたらと存じます。

佛母寺水月会

抹茶席・立礼席・点心席

日時：平成二十三年四月二日(土)  
十時三十分から十四時三十分まで

場所：鹿野山 佛母寺

富津市田倉九四二―一三

〇四三九一三七―二三三六

会費七千円

連絡先 龍源寺 〇三一三四五一―一八五三  
申し込み締切 平成二十三年三月十五日

## 龍源寺の新刊

松原哲明

『新解釈十牛図』“本当の自分”を見つけるための10のヒント―絵で理解する、禅の「悟り」への道程 主婦の友社 六九五円  
(二〇〇五年十月に主婦の友社から出版され、この度文庫化)

松原哲明

『遙かなる仏教の旅』龍源寺版  
(二〇〇二年十月、佼成出版社から出版され、一周忌法要に際し、龍源寺版として再版。定価千円)

松原泰道

『わたしの航跡』龍源寺版  
(一九九七年十一月、佼成出版社から出版され、三回忌法要に際し、龍源寺版として再版。定価千円)

柳 緑

春彼岸会を迎えます。今年は、生まれて初めて、新年を一人で迎えました。母は、大晦日から

花 紅

千葉の佛母寺で除夜の鐘を打つために、暮れから正月三日日

まで佛母寺に詰めておりました。龍源寺の正月の勤行は、朝五時よりはじまり、暗い中で、正月の一連のお経を、かつては泰道和尚・哲明和尚と一緒に誦えていたものを誰もいない本堂で一人で誦えていました。「いいか、松原、人がいなくとも、説経は続けるのだよ。柱や障子が聞いておると。三島の龍澤寺の山本玄峰老師から泰道和尚に言われた言葉をふと、思い出しました。今年の冬は、とても寒く長い冬でした。それにもかかわらず、一月・二月は、日々の法務と坐禅研修で、大忙しでした。▼六月十一日に泰道和尚・志ず三回忌、哲明和尚一周忌の法要を龍源寺で厳修致します。導師は、妙心寺管長猥下にお願ひし、寺院関係・親族・総代さんをおよびして執り行います。多くの方々から寄せられたお声を下に、七月二日(土)にグランドプリンスホテル高輪・プリンスルームにて十

八時より、三人の偲ぶ会と、禅の会四百回記念を別紙の通り行います。皆様、是非おいでください。▼日月庵坐禅堂で四月十六日・十七日で作務の会というお掃除の会を行います。龍源寺から北軽井沢の日月庵まで禅の会の野本さんにバスを運転していただきます。バスのチャーター代・往復高速道路料金・ガソリン代を参加人数で割り一人八千円くらいだそうです。もちろん、直接現地に集合もできます。作務の会の会費は無料です。泰道和尚が建立した禅堂と研修所を大切に護持したいと思っております。ご参加いただける方は、龍源寺にご連絡お願いいたします。▼年忌法要を行う場合、本堂が二階にあるため、ご高齢の方は階段の上り下りが大変です。一階の書院を使って法要を行うことが出来ます。広さと定例会の関係上、日曜日に限り十五名まででお願いいたします。▼渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。▼総代の北村行夫弁

護士さんのおかげで、お寺の借地が十坪戻りました。しばらくの間は、リフォームして借家にするか、壊して駐車場にするかして、お寺に体力をつけていきたいと思っております。借地を境内にするという、三代続いている事業を私の代でも引き続き進めていきます。▼六月十一日の法要に向け、祖父・父の本を加筆・修正し龍源寺版として二冊再版することができました。関係者の皆様に御礼を申し上げます。私自身、再び中国・元の時代に活躍していた中峰明本という禅僧の語録を少しずつ精読しています。母は、お寺の仕事はもちろん、茶道の先生、佛母寺の護持に忙しい毎日を送っています。少し忙しい方が、気持ちまぎれるのかもしれませんが。弟の覚樹は、アメリカで教鞭の仕事に就きながら、佛母寺住職として寺務を行っております。もう一人の弟である行樹は、横浜の戸塚で活躍中です。六月十一日の法要準備を共に行っています。まだまだ、気候が安定しないようです、呉々もお体ご自愛くださいますよう、お願い申し上げます。(信樹)